

佛敎學研究

淺田正博教授
定年記念

第 71 号

龍谷大學佛敎學會

平成 27 年 3 月

淺田正博教授定年記念

佛敎學研究

第七十一号

龍谷大學佛敎學會

卷 頭 言

浅田正博先生は平成二十六年三月を以て龍谷大学を定年退職されました。先生は、昭和五十八年四月に龍谷大学短期大学部専任講師となられ、昭和六十年四月助教授、平成三年四月教授に昇任、平成九年四月には文学部に移籍され、平成二十六年三月に定年を迎えられるまで、実に、三十一年もの長きにわたり龍谷大学で仏教学を講じられたのであります。

先生の指導力は若い頃より定評のあるところで、大学院博士課程在学中に、すでに叡山学院の講師を経験されておいでです。本学に着任されてからも、京都橘女子大学、京都精華大学、大谷大学、放送大学、相愛大学、九州龍谷短期大学などへ講師として出講されました。また、浅田先生は平成九年に本願寺派司教、平成十七年には本願寺派勸学を拝命されました。宗学院をはじめ、中央仏教学院や行信教校でも多くの学生の指導にあたられました。

また、短期大学部長、宗教部長、仏教文化研究所所長などを歴任され大学運営にも尽力されました。さらには、日本印度学仏教学会・日本仏教学会・真宗連合学会の理事などを勤められ、学界の発展にも貢献されました。

周知の通り、先生のご専門は「天台学」であります。龍谷大学の伝統ある日本仏教学研究の一翼を担われ、佐藤哲英先生の学統を引き継がれました。多くの研究成果は、主要業績目録に示されるとおります。平成十五年には龍谷大学で文学博士の学位を取得しておられます。

先生の研究に対する姿勢は実に厳しいもので、つねに「成仏道としての仏教」に目を向けておられました。学生の指導は浅田メソッドともいべきユニークなもので、学部生には身近な事象から思索をさせてのちに高い次

元へと導き、院生に対しては徹底的な文献読解を課し、文献をおろそかにするようなことがあれば強烈な叱咤が飛んでくるといったものでした。熱意あふれる指導の結果、在任中になんと二名の論文博士と九名もの課程博士を育て上げられました。並々ならぬ手腕という他ありません。

浅田先生が仏教学科の行事等において学生の前で挨拶に立たれたときは、いつも空間に緊張感が漲り、私語をしていた学生も思わず居ずまいを正すといったあり様でした。先生の感銘深い話は多くの学生にとつて人生の大きな糧となったはずです。

先生は厳しい指導者であると同時にとても親切で、以前に、専門の違う私が尊格研究の一環から比叡山常行堂の摩多羅神に関心をもっていると告げると、数日後に、摩多羅神関係の資料コピーを私に手渡され、「そこに見られる不思議な唄を解説してくれませんか、手がかりがないもので」と私は課題も頂戴しました。残念ながらその課題ははまだ解明できません。いつの日か、学恩に報いたいと思っております。

近年、本学で日本仏教学を専門とする若手研究者が陸續と現れてきました。浅田先生の薫陶を受けた新進気鋭の学者たちです。彼らを中心に論考を集め、ここに「佛教学研究」の記念号として刊行し、先生に献呈させていただきます。存じます。

先生は退職後に龍谷大学名誉教授とられました。浅田先生、今後とも龍谷大学における仏教研究にどうかお力をお貸し下さい。これまでの先生の学恩に感謝申し上げます、今後の益々のご健勝とご活躍を念願して、巻頭の言葉とさせていただきます。

平成二十七年二月

龍谷大學佛教學會長

入澤

崇



淺田正博教授 近影

目次

卷頭言 入澤 崇 一

浅田正博教授近影

浅田正博教授略歴

浅田正博教授主要業績目録

『論註』八番問答の問題点 相馬 一意 一

貞慶の遁世について 楠 淳 證 一

—新資料「故解脱房遺坂僧正之許消息之状」翻刻紹介—

円珍撰『法華論記』における「舍利」表現について 道 元 徹 心 一

中世真言宗における諸宗教学の受容について 野 呂 靖 一

—富山大学附属図書館ヘルン文庫蔵『王心鈔』翻刻—

三論宗における仏法の真実義について 高 岡 善 彦 一

日蓮の浄土教批判に関する一考察 三 浦 和 浩 一

青蓮院旧蔵『諸仏菩薩釈義』と浄土教 小 山 昌 純 一

—院政期の叡山浄土教—

法然浄土教の特異性 武 田 一 真 一

—空海密教との対比を視座として—

義浄による有部律典の翻訳とその影響について……………大谷由香……………一四七
伝良源撰『金剛壽命陀羅尼經疏』
における延命思想の考察……………大谷欣裕……………一五五

『駄都秘決鈔』の五藏曼荼羅理解……………龜山隆彦……………一七〇

五大明王を中心とする仁王經曼荼羅成立の背景……………鍵和田聖子……………一七六

唯識学派から見た法宝の因明理解……………小野鳴祥雄……………一七七

円珍『辟支仏義集』における『円愜』の引用について……………村上明也……………一八五

— 法宝以後に活躍した辯空法師とその学系 —

初期日本天台における因明研究について……………吉田慈順……………一七五

— 『愚論弁惑章』の検討を通して —

平成二十六年年度 文学部卒業論文題目一覧…………………………二九五

平成二十六年年度 大学院修士論文題目一覧…………………………一九八

平成二十六年年度 龍谷大學佛教學會彙報…………………………一九九

執筆者紹介…………………………二〇〇

編集後記

平成二十五年度龍谷仏教学会学術研究発表会 発表要旨…………………………(1)

平成二十六年 文学部卒業論文題目一覧

宮沢賢治の作品に見る仏教思想	伊賀 一平	——三転法輪説を中心に——	北 志緒里
半跏思惟像について	石田 典志	大迦葉の研究	北川 隆浩
——ガンダーラと日本を中心に——		空海の生涯と思想について	北澤 采佳
アンペードカルの研究	伊藤 舞	『往生要集』における地獄思想の研究	北村 優太
——宗教観と仏教観を中心に——		戦国武将における信仰の諸相	北山 祐賢
法然浄土教の研究	枝廣 真教	『中辺分別論』の研究	
チベット密教におけるグライ・ラマ制について	老田 紗季	——第一章「相品」を中心に——	久米 孝浩
空の思想の研究	大石 淳教	だんじりと仏教の関係	
大谷探検隊の研究	大谷 貴弘	——行基を切り口として——	栗山 康真
ヒルマ仏教へのアプローチ	大橋高太郎	良忍の融通念仏思想について	児玉 有希
四天王像の研究	岡本 凌	行基の思想研究	小瀨 心
不殺生戒の研究	小川 拓哉	禅の思想と現代的意義	小林 幹
菩薩思想の研究	奥川 航	俊乘房重源の研究	酒井 翔太
近代日本における戦争と仏教	奥野 寛倫	阿難の研究	榊原 弘之
法然上人の研究	面田 康孝	不動明王の研究	櫻井 乃輔
燃燈仏授記本生図の研究	小山 一太	仏教カウンセリングの研究	櫻木 亮宗
——ガンダーラを中心に——		白隠禅の研究	笹川 勝永
観音諸難救済図の研究	門 大貴	弘法大師空海の研究	佐々木 翠
玄奘の仏教観	川村 知洋	仏教説話図の変遷	

—— 労度又關聖変を中心として ——

チベット仏教美術とその展開

五時八教論争の再検討

枯山水の研究

五戒の研究

地獄思想の研究

『往生要集』にみる地獄思想

最澄の一乘思想の研究

平田篤胤の仏教観

葬式仏教考

—— 現代日本と仏教の関わりについて ——

飲酒戒について

弘法大師信仰の研究

四諦の研究

—— 『俱舍論』、『賢聖品』を中心として ——

ナーガ・龍と仏教

『典座教訓』から学ぶ教え

仏教福祉の研究

『華嚴経』「入法界品」の研究

教育と仏教

日本仏教における荘嚴

韓国の弥勒信仰

—— 比丘尼律を中心に ——

仏教における食

ポロブドゥールの研究

大乗仏教に於ける執着について

『往生要集』の研究

大乗仏教の起源

—— 仏像誕生との関わり ——

仏教説話の研究

仏教と女性

—— 図像表現を中心に ——

空海の書と書論

来迎図の研究

『大日経』の研究

—— 「住心品」を中心に ——

不飲酒戒の研究

空海の密教思想について

『興福寺奏状』の研究

精進料理の研究

日蓮聖人の研究

八部衆の一考察

仏教とキリスト教の比較的考察

—— 愛と慈悲の觀念を中心に ——

地藏菩薩の研究

不動明王像の研究

—— 日本における信仰の歴史 ——

中村 陸

成田 望

南野 裕大

西尾 祐紀

西村古都恵

灰谷 侑花

長谷川宏朗

畑田 育美

濱川 拓夢

濱田 俊杜

林 勇志

平井 大生

廣岡 正義

藤木 希実

藤田 泰嗣

藤原 希

本田 幸司

増田ちなつ

松尾 駿貴

法然上人の研究

禅と茶道の研究

——特に茶道形成期を中心として——

ガンターラ仏の研究

日本仏教における本地垂迹思想の研究

仏教に於ける食の研究

地藏信仰について

地獄絵の研究

仏教における死生観

——自死の問題を中心に——

日本庭園の美とそれに関わる禅の意識の研究

地獄について

仏教建築と伊東忠太のかかわり

法然の念仏思想の研究

チベット密教の研究

円空の生涯と思想

宗教教育に見る仏教

松山 健吾

丸本 大凱

三田 紗己

宮崎 繁忠

日黒 照典

本山 清也

森田 昇平

森本 和真

森本 一也

山口 晃平

山田 卓矢

山名 智徳

山本 和典

山本潤一郎

柚木この美

——各国教科書の記述を手がかりに——

『観無量寿経』について

仏教福祉と現代的課題

——福田思想に基づいて——

叡山浄土教における「念仏行」の研究

真迢の念仏思想について

禅と食

空海の即身成仏思想の研究

法然の念仏思想の研究

仏教における地獄の考察

菩薩思想の形成と展開

——ジャータカから大乘へ——

良遍の浄土教思想の研究

禅茶文化の成立と展開

一角仙人の研究

興正菩薩叡尊の研究

大仏の造立

植村 瑠晟

貝屋この葉

藤 法順

今井 悟

栗田さだめ

高橋 深行

田中 佑弥

中井 竜太

濱野 賢三

深田 雅史

村山 貴

山田 信吉

堀本 識仁

榊永 久貴

優秀卒業論文題目（五十音順）

『中辺分別論』の研究

——第一章「相品」を中心に——

北山 祐賢

仏教説話図の変遷

——労度又闍聖変を中心として——

枯山水の研究

佐々木 翠

白鳥 芥香

平成二十六年 度

大学院修士論文題目一覧

『仏説要行捨身經』の研究
華嚴教学における「非情成仏」の研究
真興撰「一乗義私記」の研究

石垣 童子
高田 悠
中島 教芳

『中論頌』初期註釈書の研究
——『無畏論』と青目釈『中論』の比較研究を
中心として——
明恵上人高弁における修道観の研究
真岡 陽明
三輪 亮介

平成二十六年年度 龍谷大學佛教學會彙報

平成二十六年四月十一日(金)

新入生入会説明会(深草学舎 二十二号館〇〇二教室)

五月十三日(火)

龍谷大學佛教學會 定期總會(大宮学舎 本館講堂)

十二月四日(木)

龍谷大學佛教學會 仏教学大会

(大宮学舎 清和館三階ホール)

講師 山田明爾(龍谷大学名誉教授)

講師 善き人 Satsumasa

——舍利供養に関わるいくつかの疑問——

平成二十七年一月二十八日(水)

龍谷大學佛教學會 學術研究発表会

(大宮学舎 西饗二階大会議室)

発表者 ウィックストローム・グニエル(龍谷大学大学院博士課程)

題目 法蔵における四宗判の展開

発表者 佐竹真城(浄土真宗本願寺派宗学院研究生)

題目 長西の「諸行本願義」再検討

発表者 打本和音(龍谷大学アジア仏教文化研究センター)

——リサーチアシスタント

題目 『観弥勒菩薩上生兜率天経』の成立背景

——弥勒と阿逸多の関係を中心に——

発表者 シヤントウ・バルア(龍谷大学大学院博士課程)

題目 Fagua Festival:

A Socio-Popular Festival of the Oraon Buddhist community of Bangladesh

発表者 桑月一仁(龍谷大学大学院博士課程)

題目 『菩薩地』『真實義品』における vastumātra に

いて

発表者 ウォ・ティ・ワン・アン(龍谷大学大学院博士

課程)

題目 瑜伽行派からチャンドラキールティの菩薩道思想

への影響

——十地・十波羅蜜多の配当関係に関して——

発表者 吉田哲(龍谷大学経済学部専任講師)

題目 『集量論』第一章におけるサーンキヤ知覚説批判

——その批判方法を中心として——

執筆者紹介 (執筆順)

相馬 一意	(そうま かずい)	本願寺派勧学、元龍谷大学教授
楠 淳 證	(くすのき じゅんしょう)	龍谷大学教授
道元 徹 心	(みちもと てっしん)	龍谷大学准教授
野呂 靖	(のろ せい)	龍谷大学専任講師
高岡 善彦	(たかおか よしひこ)	元龍谷大学非常勤講師
三浦 和 浩	(みうら かずひろ)	興隆学林専門学校准教授、龍谷大学仏教文化研究所客員研究員
小山 昌 純	(こやま まさずみ)	西山浄土宗教学研究会所員
武田 一 真	(たけだ かずま)	龍谷大学非常勤講師
大谷 由 香	(おおたに ゆか)	日本学術振興会特別研究員
大谷 欣 裕	(おおたに よしひろ)	龍谷大学非常勤講師
亀山 隆彦	(かめやま たかひこ)	米国仏教大学院ポストドクター研究員
鍵和田 聖子	(かぎわだ せいこ)	龍谷大学非常勤講師
小野嶋 祥雄	(おのしま さちお)	龍谷大学非常勤講師
村上 明 也	(むらかみ あきや)	龍谷大学兼任講師
吉田 慈 順	(よしだ じじゅん)	龍谷大学非常勤講師

平成26年度 龍谷大學佛教學會役員

会 長	入澤 崇			
理 事	入澤 崇	楠 淳 證	能仁正顕	野呂 靖
	長谷川岳史	藤丸 要	道元徹心	芳村博実
	若原雄昭			
評議員	入澤 崇	岡本健資	桂 紹隆	楠 淳 證
	能仁正顕	野呂 靖	長谷川岳史	藤丸 要
	三谷真澄	道元徹心	若原雄昭	(五十音順)
総 務	野呂 靖	打本和音 (D 3)	清水 仁 (M 1)	
会 計	桑月一仁 (D 3)	徳力義隆 (M 1)		
庶 務	バルア・シャントウ (D 2)			
書 記	橋本一道 (M 1)			
編 集	道元徹心	西山良慶 (M 1)		
監 事	吉田 哲	間中 充 (D 3)	谷川 俊 (L 3)	

編 集 後 記

『仏教学研究』第71号をお届け致します。

本号は浅田正博先生の退職記念号として企画しました。

浅田正博先生は昭和58年から昨年度まで本学の専任教員としてご活躍下さいました。その間、本学会の学会長をはじめ、短期大学部部長・宗教部長・仏教文化研究所所長を歴任され、さらには日本印度学仏教学会・日本仏教学会・真宗連合学会の理事を勤められ、学会の発展に多大なご尽力をいただきました。

浅田先生の学問分野は天台学であり、日本印度学仏教学会の学会賞を受賞、多くの新出古典籍の紹介や五時八教論争では学会を盛会に牽引されたことでも知られ、大きな業績を残されました。

学外においても本願寺派勸学寮員としてご活躍であり、本願寺をはじめ全国で伝道教化に邁進しておられます。このような先生の学恩に報いたいというおmoiから、先生の専門分野や直接指導を受けた研究者を中心に15編の原稿が寄せられました。先生には今後とも後進のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

今号まで連続3回の退職記念号となりました。次号からは広く学会員の皆さまに原稿を募りますので、是非とも日頃の研究成果をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。
(道元徹心 記)

平成27年3月10日発行

佛教学研究 71号

編集者 龍谷大學佛教学會

〒600-8268 京都市下京区七条大宮
龍谷大学 仏教学合同研究室内

発行者 龍谷大學佛教学會

〒600-8268 京都市下京区七条大宮
龍谷大学 仏教学合同研究室内

Bukkyo-Gakkai, Buddhist Research Institute, Ryukoku University
Department of Buddhist Studies, Ryukoku University,
Shichijo Omiya, Shimogyo-ku, Kyoto 600-8268, JAPAN

頒布所 百 華 苑

京都市下京区油小路六条上
電話<075>371-5760番
振替 01080-1-25788番

印刷所 図書館 朋 舎

京都市下京区中堂寺鍵田町

CONTENTS

- A Difficult Point in the Eight Queries on Birth in Amida's Pure
Land of the *Wangshenglunzhu* Kazui SOHMA 1
- Concerning Jōkei's Retirement from the World: An Introduction to the
Reprinting of the Newly Discovered "Letter Requesting the Pardon
of the [Tsubo] saka Sōjō Sent by the Late Gedatsubō [Jōkei]"
..... Junsho KUSUNOKI 19
- On the expression of "shari" in Enchin's *Hokkeronki*
..... Teshin MICHIMOTO 29
- On the Acceptance of Various Buddhist Schools Teachings within
the Medieval Shingon School Sei NORO 47
- Profound Teachings on Buddhist Truth asserted by chinese
SANRON School Yoshihiko TAKAOKA 83
- A study on Nichiren's criticism of Pure Land Buddhism
..... Kazuhiro MIURA 99
- Formerly stored by Shoren-in "青蓮院" Shobutsu-Bosatsu-Shakugi
"諸仏菩薩釈義" and that Pureland Buddhism
: Eizan-Jodokyo "叡山浄土教" in Insei period
..... Masazumi KOYAMA113
- Peculiarities of Honen's pure land Buddhism
..... Kazuma TAKEDA131
- The translation of Mūlasarvāstivādin Vinaya by Yijing and its Influence
..... Yuka OTANI147
- A Consideration on the Ideaology of Life Extension in the
Kongojumyodaranigyosho attributed to Ryogen
..... Yoshihiro OTANI.....165

The Five Viscera Maṇḍala (<i>gozō mandara</i> 五藏曼荼羅) in the <i>Dato hiketsu shō</i> 駄都秘決鈔 Takahiko KAMEYAMA	197
The Background on the Establishment of Benevolent Kings Sūtra-maṇḍala (Ninnōkyō-maṇḍala) Making the Central Parts by the Five Vidyārājas Seiko KAGIWADA	217
The Weishi School's View on Fabao's Understanding of Hetu-Vidya (In-myō) Sachio ONOSHIMA	237
On the "Enju" quoted in Enchin's <i>Byakushibutsugisyū</i> : Biankong, who was active after Fabao, and his school of thought Akiya MURAKAMI	251
A Study of inmyō in Early Japanese Tendai Buddhism: An Investigation through the <i>Min'yu Benwakushō</i> Jijun YOSHIDA	275

龍谷大學佛教學會會則

第一章 總 則

第一條 本会は、龍谷大學佛教學會と称する。
第二條 本会は、仏教學の研鑽ならびに会員相互の親睦を図ることをもつて目的とする。
第三條 本会は、事務所を京都市下京区七条大宮龍谷大學仏教學研究室内に置く。

第二章 会 員

第四條 本会は、次の会員をもつて構成する。
一、名譽会員：本会に功績のあつた人の中から、理事会がこれを推薦し、総会で承認する。
二、個人会員A（普通会員）：本会の主旨に賛同する研究者をもつて会員とする。
三、個人会員B（学生会員）：龍谷大學文学部の仏教學専攻の学生をもつて会員とする。
四、個人会員C（賛助会員）：本会の主旨に賛同して事業の援助を専らとする者および本会の発行する刊行物の入手を専らとする者をもつて会員となす。
五、団体会員：仏教研究を主目的とする大學、短期大學およびそれに準ずる学校學術団体ならびに本会の主旨に賛同する団体をもつて会員とする。

第三章 総 会

第五條 総会は、本会の最高議決機関である。
第六條 総会は、本会の個人会員を

もつて構成する。
第七條 総会は、個人会員の五分の一以上の参加をもつて開催することができる。
第八條 総会は、次の場合に開催される。
一、定期総会（毎年五月）。
二、会長が必要と認めた場合。
三、会員の五分の一以上の連署による要求のあつた場合。
第九條 総会における決議は出席会員の過半数の同意を必要とする。

第四章 役 員

第十條 本会は、次の役員を置く。
一、会長 一名：理事の中から互選し、本会を代表して会務を統理する。
二、理事 若干名：評議員の中から互選する。理事は理事会を組織し、会務を処理する。
三、評議員 若干名：会員の中から、総会において選出する。ただし、他の役員との兼任を妨げない。
四、編集員 若干名：会長が評議員の中から委嘱し、学会誌「仏教研究」の査読、編集を行ふ。
五、委員 若干名：会長が委員の中から委嘱する。
六、総務 二、会計 三、編集 四、庶務 五、書記。
第十一條 評議員の任期は三年、他の役員は一年とし、重任を妨げない。

第五章 事 業

第十二條 本会は、次の事業を行ふ。

一、総会。
二、學術大会。
三、研究会、輪読会および研究発表の開催など。
四、学会誌の発行。
五、会員の親睦に関わる事業。
六、その他、必要とする事業。

第六章 会 計

第十三條 本会の経費は、会費、寄附金、その他の収入による。
個人会費は、年額五、〇〇〇円とする。
団体会費は、年額一〇、〇〇〇円とする。
第十四條 本会の会計年度は、四月より翌年三月までとし、会計報告は定期総会において行ふ。

第七章 附 則

本会則は、総会の決議により変更することができる。
一、本会則は昭和四十五年十二月十一日施行の龍谷大學仏教學會會則の一部を変更し、平成二年四月一日より施行する。
二、本会則は、平成二年四月一日施行の龍谷仏教學會會則の一部を変更し、平成六年四月一日より施行する。（第四章第十條・第四章第十一條・第五章第十二條・第六章第十三條の改正）
三、本会則は、平成六年四月一日施行の龍谷仏教學會會則の一部を変更し、平成二十五年五月十四日より施行する。（第一章第一條、第六章第十三條の改正）

**THE
STUDIES IN BUDDHISM**

BUKKYOGAKU-KENKYU

No. 71

Presented in Honour of
prof. Masahiro ASADA
on his retirement from
Ryukoku University

March, 2015

Buddhist Research Institute

Bukkyo-Gakkai

Ryukoku University, Kyoto, Japan.